

学校図書館を活用した防災授業づくりへの教育実習生の意識調査

東京学芸大学附属高等学校 教諭 ○榎原 智美
東京学芸大学附属高等学校 司書 ○岡田 和美
東京学芸大学附属世田谷中学校 司書 村上 恭子
東京学芸大学教育学講座 准教授 前田 稔

はじめに

防災について、日頃から考え授業で取り上げることは大切であると考え。教育効果として、日頃から災害を意識した生活を送ることは非常時への備えともなり、被災している人々への理解にも繋がる。そのような効果を踏まえ、災害を意識した授業は効果ある授業と考える。しかし、授業の中に防災教育を取り入れている学校は少ない。避難訓練等を行い、また、特活の中で取り上げることの方が多く状況である。いつ起こるかもしれない身近なこととして災害について日頃から意識を持ち、日常の生活の中に活かせるような授業としての防災の学習は大切である。これから教員になっていく教育実習生の防災授業づくり教育の一つとして、学校図書館を活用して授業提案をするとともに、教育実習生の防災教育観を調査した。

方法

2019年6月教育実習中の大学4年生9名、2019年9月10月実習予定の大学3年生2名、大学4年生5名の合計16名の教員を志す大学生に2019年6月中旬、聞き取りおよび記述のアンケート調査を実施。①～⑤はアンケート内容。

①自教科授業に防災関連事項が取り入れられるか、②今まで実習生自身が学んできた「防災」の場面を記載してもらう。③授業のイメージを5ワードで聞き、自由記述から詳しい意見を聞き取る。④実習生自身が図書館とどのように関わり、どのような距離感に図書館が存在するのかを調査。⑤学校図書館と繋げた授業に対する意識を調査。アンケートの前に、例として中学校家庭科の時間に実施した学校図書館を活用した防災関連授業の概要と流れの説明をして、防災関連授業のイメージを持ってもらう。

①～⑤のアンケートに先駆けて、学校図書館を取り入れた授業を実施した教育実習生に、学校図書館について「あなたが小学校の時の図書の時間で、特に印象に残っていることはどんなことですか？読み聞かせ、ブックトーク、自由図書、利用指導、図書の分類、その他（具体的に）」および「中学校・高校・大学時の学校図書館の使い方および公共の図書館の使い方について」のアンケートを2017年10月に実施している。学校図書館について自由記述で聞き、テキストマイニングにより分析をしている。その結果、授業をすることで教育実習生の学校図書館のイメージは、身近な物へと変化していることが読み取れた。

自由記述より「教材を考える時に、最初は本を各自選んで紹介するという流れで考えていたが、それだけでは図書の授業になってしまうことを学んだ。学校図書館で行うが、家庭科の授業なので家庭科的な視点を入れることの大切さ、経済や環境にどう関係しているのかなど、1つの視点のみならず関連することについても踏み込む必要があると学んだ。本にするのか資料を決めておくのか、生徒に同じものを用意するのかなど、何を身につけさせたいのかを踏まえて決めておくべきであると学んだ。」などの記述もあり、教育実習生は学校図書館での授業の経験をすることで、その役割や機能を理解し今後、多様な使い方をイメージできる教員になると考えられた。今回も2017年10月実施アンケートと同様な学校図書館アンケートを2019年6月の防災授業アンケートと同日に実施した。

結果

「『防災』について学校で授業することについてどう思いますか。」という問いに対し、質問をした16名全員が「必要である」「積極的に取り組むべき」と防災の授業に対し、肯定的に答えている。ただし、授業の内容やカリキュラムの中での位置づけ、時間数についてなどの具体的方向を考える必要をあげている人が5名31.3%、生徒の今後や災害の多い国であることなど将来についてを「『防災』について学校で授業する必要性あり」の理由にあげたのは10名62.5%であった。また、自分の教科で「防災」に関連した授業が可能だと思う10名62.5%、思わない6名37.5%であった。可能だと思う実習生は、全員具体的な授業の場面をあげることができていた。思わない、に回答した人も「教職課程をとっている身としては、もう少し考えておいた方が良いと感じた。」「SNSを活用した防災についての授業も展開できる」など自分の意見を持っていた。「『防災』について学校で授業することについてどう思いますか。」の自由記述には「学校は、未来ある多くの若者の命を預かっている責任があります。学校にいる時はもちろん、あらゆる場面で災害に直面する可能性がこの国にはあります。特に東京では、人々も多く、ひとり一人が何をすべきか認識できていなければ、いざという時、パニックも起きかねません。いざという時どう行動するべきか判断できる人を育てることが最大の防災かもしれません。」「自分が未成年の頃は危機感がなく、防災についての教えも軽んじていたので、生徒にどう必要性を理解してもらうかが重要になってくると思う。」などの記載もあった。

課題

防災に関連する授業を、カリキュラムの位置づけや、どの教科が、または複数教科が実施するのか、全教科で実施するのかなどの精査が現場に取り入れていくためには必要である。複数教科から教科内容が盛りだくさんで授業数が足りない、という声を聞く。そのような現状の中で、どのような取り組み方が効率的なのかを、考えていく必要がある。防災・災害の情報も動き、進化している。その新しい情報や流れに対応する資料コレクション作りには図書館とりわけ学校図書館が重要な役割を果たすと考える。学校図書館を利用した防災授業作りに活用できる資料コレクションを提案していくことも課題である。